

基調講演：社会的インパクト投資の旅- 2020 年までのロードマップ

2/19 10:00-10:40

Global Social Impact Investment Steering Group (GSG) 会長 ロナルド・コーエン卿

朝日新聞社 常務取締役 西村陽一氏

2015年5月に、G8 社会的インパクト投資タスクフォースシンポジウム「投資で創る社会的事業～経済的リターンと社会的インパクトを同時にスケールするには～」が開催された時、社会的インパクト投資の父として知られるロナルド・コーエン卿が招聘された。それから2年半。コーエン卿から、日本はどう弾みがついているのかについて語られた。



※GSG 会長 ロナルド・コーエン卿

課題先進国である英国でのチャレンジと貧困の連鎖

2000年、私は英国の貧困という課題の解決策を考えたときに、それまでも巨額なお金が使われてきながら、努力も続毛ながら、それでも連鎖している状況から、既に制度は破綻していることに気づかされた。その後、ソーシャルインパクトボンド（SIB）という手法を再建したのである。例えば、若い受刑者の6割が再犯であるという事実を、改善するために、どのようにファイナンスのリターンにつなげていけばいいのかを考え続けた先に、資本市場に対する答えを見つけたのである。それが、ベンチャーキャピタリストのニーズでもあった。

最初は、500億円が投資され、9.7%有罪率が減り、3.1%のファイナンスのリターンを投資家に戻した。

SIB は政府を支援し、マイナスの状況をプラスにして行く突破口になることを感じたと同時に、世界の投資の概念は、リスク・リターンに対しての投資から、リスク・リターン・インパクトに対して投資するという考え方に変化していることに気づいた。

今後、70－100の SIB が準備されているが、その基盤が広がってきており、ビジネス界を巻き込むようになってきていることに加えて、政府も、休眠預金を解放したことは、大きい。

ミレニアム世代の価値観

ミレニアム世代は、ITなどの事業を大きく牽引してきている。彼らは、実質的な考え肩をする。例えば、道徳的なビジネスでなければ働きたくないと思うように、中身が伴っているかどうかを重要視し、常にインパクトを議論している。当然ながら、ソーシャルにもインパクトを求めてくる。アウトカムのために、お金が払われる。当然ながら、そのアウトカムは評価され、それによりアウトカムの市場ができてくるのである。

今後、SIBは、世界で、一兆ドルの市場になり、政府にも投資し、社会にポジティブな支援となるだろう。



※朝日新聞社 常務取締役 西村陽一氏

朝日新聞 常務取締役 西村陽一氏との対談

西村氏：課題、人道支援に対してのパッションがある人、ご自身の体験から熱意があるのではないかと考えていますが、導入として教えていただけますか。

コーエン卿：確かに、ここにいる人全員が、それぞれの個人的な理由があると思う。その一つは、お金儲け以上の義務を感じているのだと思う。

私は、エジプトでスエズ危機があったとき、全てを失い、難民としてイギリスに渡った。スーツケース一つだった。だからこそ貧困をはじめとする社会課題にパッションがあるのであろう。

1960年代、オックスフォード大学在学中は、理想主義世代でもあったことも、理由の一つになるかもしれない。経済成長を追い求め、格差が生まれたため、感覚として使命感があるのかもしれない。

西村氏：社会的インパクト投資という手法が、なぜ、社会課題解決に有効なのか、改めて教えてください。

コーエン卿：今の政府は、10兆ドル以上を教育に対して使っているが、まだ課題は続いているという現実がある。それはすなわち慈善的なモデルは破綻しているのではなかろうか。慈善団体を見てみると、小規模でお金がないということがわかってくる。

これまでの制度や仕組みではなく、アウトカムベースで投資がなされて行く。さらにいうと、アウトカムベースであることが、「投資の機会」に変換されるということでもある。

西村氏：環境、ジェンダー、貧困などのSDGsの達成期限が2030年。インパクト投資の転換点を2020年にしたいとおっしゃっている理由を教えてください。

コーエン卿：2020年、分岐点に来るのではないだろうか。アウトカムペイメントファンドの創出など、どんどん近づいてきているように、市場が急成長すると思う。

ESGも含め、この動きを促進するために、大企業にもどんどん参入してほしい。ある特定の課題の改善に対して、何ができるのか、そのパフォーマンスを追求していく必要がある。

企業もお金儲けだけでは許されない時代がくる。日本も、グリーンボンドにおいて大きな役割を担っている。



西村氏：英国で休眠預金の活用がうまくいっている秘訣はなんでしょう。

コーエン卿：英国内閣府が中心となり、世界で初めてソーシャルセクターをサポートするために設立された「ビックスサイエティキャピタル」は休眠預金とメガバンクからの資金が資金源だが、6億ポンドのうち4億ポンドは休眠預金からの資金である。

アウトカムペイメントファンドに、リターンが入ってくれば、雇用、障がい者支援などにさらに投資することができる。すなわちエコシステムを作っていくことが重要になってくる。

以上